2026年3月【市民の会、堀井慎一朗議員】一般質問　文字起こし

【桂藤和夫議長】 これより令和8年第2回庄原市議会定例会を再開いたします。ただいまの出席議員19名であります。よって直ちに本日の会議を開きます。諸般の報告については配布しております報告書第2号の通りです。また本日の会議におきまして写真撮影、録音録画を許しております。これより日程に入ります。日程第1、会議録署名議員の指名を行います。会議規則第88条の規定により、議長において9番、五島誠議員、10番、徳永泰臣議員をそれぞれ指名いたします。日程第2、一般質問を行います。本日は代表質問を行います。通告に基づき順次質問を許します。会派市民の会、堀井慎一朗議員。

【堀井慎一朗議員】 おはようございます。議席番号15、市民の会の堀井慎一朗でございます。議長よりお許しをいただきましたので、通告に基づきまして一般質問を行わせていただきたいと思います。大きくは大項目として2点、一般質問をさせていただこうと思います。それでは1項目、持続可能財政運営と第3期長期総合計画との整合についてお伺いします。本市は人口減少の進行、税収基盤の縮小、経常収支比率の高止まり、さらには財政計画において財政調整基金残高の減少が見込まれるなど構造的な財政課題を抱えております。令和8年度からスタートする第3期長期総合計画は本市の最上位計画であり将来像の実現に向けた政策施策の羅針盤であるが、その実行性は財政的裏付けと不可分でございます。計画の理念と財政の現実をいかに接続させるかは本市の将来責任に直結する重要な論点であることから次の点について市長の基本的な考えを伺います。第3期長期総合計画に掲げる施策体系における各事業について、今後の財政見通しとの整合はどのように確保されているのか伺う。特に経過期間中の一般財源所要額について総額ベースでの推計や年度間の財源配分調整をどのように行っていくのか考えを伺います。以下の質問については質問席にて行います。

【八谷市長】 皆さんおはようございます。それではご質問にお答えをいたします。令和8年度予算につきましては、財政運営プラン策定前の暫定措置として、各事務事業の必要性と代替可能性を自律的に点検し、財政調整基金からの繰入額を前年度同水準に抑えることを編成方針といたしました。その結果、国県補助金の活用や有利な市債の充当、ふるさと納税の確保といった歳入の上積みに加え、普通建設事業の平準化、役割を終えた補助金等の廃止縮減を実施し、ピースフルをはじめとする新規政策を計上しつつ、財政調整基金からの繰り入れは前年度同水準を維持したところであります。次に長期総合計画実施計画への対応であります。令和7年度財政計画で示した通り、普通建設事業に単年度の市債枠25億円、一般財源枠を3億5000万円を上限とし過度な財政負担の発生を回避することとしております。なお、計画に計上した事業の着実な推進を基本としつつ、事業進捗や財源確保の状況、社会情勢の変化等を踏まえ、必要に応じて機動的かつ柔軟に対応してまいります。

【堀井慎一朗議員】 はい。市長の答弁の中にもありましたように、持続可能な財政運営プランもこれから検討されるということで、令和8年度についてはこれまでの一定の予算規模などを引き継いだというような形で令和8年度予算については策定をされたということであろうかと思います。一般財源の所要額でありますとか、年度間の財源の配分等については、詳しくは恐らく実施計画のほうで示されているものという風に思っていますけども、これまで実施計画については5年という単位で見直しをしていくということでありましたが、今回3年ということで提案をされております。この実施計画なんですけども、これまでは各事業の年度ごとの事業費というものも記載をされておりまして、それを見れば一定の5年間である事業の総額あるいは各年度においてどの程度の事業費を充ててその事業を進めていくということが分かったものでございますが、今回示された実施計画では、令和8年度の当初予定をしている事業費については記載がございますけども、その後は各年度に黒丸で何年度にやるのかというような表示にとどまっているという風になっております。そうするとなかなかその事業がどの年度でどのぐらいの財源を予定しているのかというようなところがなかなかぱっと見えにくいところがあるのかなという風に思っておりまして、特に総額のところがある部分については恐らく市道の整備でありますとか、街路の整備そういうようなところについては恐らく別の計画でどの路線をいつやりますよというようなものがございますので、総額の表示になっておりますけども、そういうものがないものについては先

ほど申し上げましたように各年度ごとの事業費というのはこの実施計画を見た上ではすぐには読み取れないという風になっております。今回そういう風に変更されたというようなところでの狙いと言いますか、思いと言いますか、その辺りあればお伺いしたいと思います。

【企画課長】 はい、ご質問にお答えをいたします。この度の実施計画につきましては、先ほど議員が言われた通り、見直しを行ったところでございます。これにつきましてはこれまでの実施計画、5 年セットといたしまして各年度の事業費を計上しておったわけでございますが、ご承知の通り毎年度ローリングする中でですね、翌年度の事業費については適宜見直しをしておったところでございますが、如何せん事業の進捗によってですね、翌年度の事業費は大きく変化するものもあるといったところが実態であったろうと思います。若干ですね、長期 5 年にわたる実施計画そのまま今の形で残してもですね、その数字だけが形骸化してまかり通っていくと、実態をですね本当に表した実施計画となるかというところについては少し庁内でも検討いたしまして、特にソフト事業につきましては令和 8 年度の取り組みによって令和 9 年度 10 年度以降の取り組みの方向性も変わってくると、8 年度の PDCA によって翌年度以降のその事業の方向性が決まるというようなところの観点からですね、一律に現時点での机上の事業費を載せるということよりも、そうした実態に即した形で毎年度見直しをしていく、それを 5 年から 3 年スパンにして迅速に社会情勢を的確に反映する見直しとすると、そうした意図を持ったものでございます。一部普通建設事業等につきましては、個別の整備計画等で財源とか年度間の事業費というところは整理いたしておりますので、そうした計画にあるものにつきましては準拠してですね、実施計画のほうにもそれを反映しているというような形で整理をしたところでございます。

【堀井慎一朗議員】 はい。今申されましたようにこの実施計画毎年ローリングをかけて次年度の財源の調整をされてきたというものであるという風に理解をしております。最初に申し上げましたように仮の数字になるのかもしれませんけども、やはり各年度の大まかな事業の予算規模ですね、が分かることで、職員の方も予算の確保そういうところが実施計画において裏付けされているというような部分もあるのではないかなと思っていまして、そこがなかなか見えにくくなったことでですね、次年度どの程度の予算の確保ができていくのか、これはローリングの中で当然増減、例えば来年度予定されていたものが再来年度になるというようなこともあろうかと思いますけども、一定の職員の仕事をする上でもですね、やはり参考になるものであったのではないかと思いますけども、今回こういう風な形を捉えたことで各事業の推進計画というようなものが職員にとっても見えにくくなってしまっているのではないかなという思いがありますけども、その辺りいかがでしょうか。

【企画課長】 ご質問お答えをいたします。所管課においてはですね、8 年度であれば 8 年度予算だけを見てですね事業立てているわけではございませんで、当然その後には続いてくる予算と言いますか事業の方向性というのは持っているという風に認識をしております。8 年度中のですね、そうした事業の点検と言いますか、事業の進捗管理におきましてはこれまでも再三ご説明をさせていただいておりますが、組織的にもですね、そうした事業管理を行う部署を設置いたしまして、全庁的にですね、事業の PDCA サイクルの確立というところはしっかりやっていくと。そうした見直しをですね、年度間できちんと方向付けをする中で、例年よりですね早めに予算につながるその 9 年度以降の事業の方向性というところを整理する中で、各所管課においてはですね、次の方向性というのがきっちり出てくる。そうなると必要な予算の裏付けまた財源の確保というところも合わせて進めていくということになりますので、今の実施計画これまでの実施計画のようにですね、そうした裏付けがない中で単なる事業費の枠だけが示されていると、そうした実態のないやり方から実際にこう事業の進捗に合わせて必要な予算であったり財源を所管課がきちんと確保していくという、それをまた財政当局の方へ財政課の方へ要求をして財政課が全庁的な配分をすると、そうした仕組みにですね変えていくということを念頭に置いておりますので、そうした懸念をですね払拭できるような形で事業の仕組みと言いますか仕事の仕組みも変化をさせていきたいという風に思っております。

【堀井慎一朗議員】 はい。課長のおっしゃられたことも十分分かるところもございますけども、やはり質問の中でも申し上げてますように、やはりこの長期総合計画というものが裏付けがあってこそのものかと思います

ので、そういった中でこの実施計画3年間の事業費の全体像を掴むにあたってはですね、やはり各事業年度の予算規模というものは大まかに示されなければなかなかその各年度の事業の大きさというものは分かりにくいのかなという風に思いますが、そのように組織としてしっかり取り組んでいくということでございますので、またその辺りのところは経過等も見させていただきたいという風に思います。

財政指標の目標設定について

【堀井慎一朗議員】 それでは次の質問に入りたいと思います。第3期長期総合計画の実行性を担保するためには財政規律の明確化が重要であると考えますが、経常収支比率の目標水準、財政調整基金の最低確保額、実質公債費比率及び将来負担比率の管理目標など、計画期間中に維持すべき財政指標について具体的な目標設定を行う考えはあるのかお伺いいたします。

【八谷市長】 ご質問にお答えをいたします。第3期長期総合計画では行政運営の目指す姿の実現に向け主要な財政指標の目標を明示しております。具体的には目標年度である令和16年度に実質公債費比率11.5%、経常収支比率97.7%、財政力指数0.26を目標値として設定したところであります。なおご質問の財政調整基金につきましては、歳入変動や災害リスク等への備えの観点から財政運営プランにおいて中期財政見通しに即した基金残高の目標額を定めることとしております。また将来負担比率につきましては現時点で比率の上昇を招く新たな要因は想定しておらず、目標値の設定は予定をしておりません。

【堀井慎一朗議員】 はい。長期総合計画の最後のページだったと思いますけども一応の目標数値というものは設定をされております。ただこの数値というのが令和6年度と同水準ということで、この間の予算規模としては財政計画で示された通り300億前後ということで令和8年度当初予算と同水準で想定をされておりますけども、この令和16年の目標数値については達成しなくてはいけない最低ラインの目標、現状維持という目標でございますので、様々これから財政運営厳しくなっていくという中で現実的な目標数値を設定されたのかなという風にも思いますけども、今後のことを考えた時にですね、先ほど市長言われました財政運営プランのほうでさらにこの目標数値というものは精査をされるんだと思いますが、この目標数値についてさらに改善をされた目標数値というものをきちんと設定をしていくべきではないかと思いますけどもその辺りいかがでしょうか。

【財政課長】 ご質問にお答えします。目標数値にかかるご質問でございますけれども、先ほど市長答弁ございましたように、長期総合計画におきましては、令和16年度におきまして実質公債費比率が11.5%、経常収支比率が97.7%、財政力指数が0.26ということで議員ご指摘の通りですね、令和6年の決算ベースの数値を目標といたしました。この3つの指標につきましては、まず実質公債費比率についてはこれは起債額の占める割合ですので、これは計画的に起債の借り入れを行っていくということでですね、ある程度コントロールできる数値かなという風に考えてます。ですのでこれはもう計画的な事業展開、起債の借り入れというものを年次的に整理をしながら行っていくということで、この数値についてはある程度目標達成には向かってですね整理ができてくるものと思ってます。経常収支比率が非常に課題かなという風に捉えております。令和8年度の予算概要の方でも示させていただきましたが、令和8年度末の見込みで98.8%という見込みを出しております。一時的に悪化してくると、経常収入に占める経常支出の割合が高まるという状況ですので、財政構造的にはさらに硬直化が進むという見込みを立てております。これは議員ご承知の通り、様々な物価高騰であるとかそういった歳出がですね今増えているという状況の中で、経常収入の方がそこに追いついていないということが要因です。これについてはもちろん経常収入の確保というのも非常に重要な視点ですけれども、やはり今の歳出の中身をですね点検をして、経常経費の方をですねいかにこう絞っていくかっていう視点も非常に重要だと思います。ただし経常経費ということになりますとやはり市民生活にも大きな影響を与える、単純な視点でですねただ単に削ればいいというような問題もございませんので、そこは慎重に検討していく必要があるという風に考えております。ですので数値的には維持をするということですが、基本的には歳出が非常に膨れてきている中でですね、そこを97.7で維持していくっていうことはですね、むしろ今の現状を考えますと非常にその計画達成もですね

多くの市民の皆さんのご理解をいただきながら見直しを行っていくっていうこの前提ですので、そこに向けてですねそういった取り組みを進めていく、その際には財政運営プランのほうでもしっかり目標数値も明示をさせていただいて進めさせていただきたいと考えております。

【堀井慎一朗議員】 はい。おっしゃいました通り経常収支比率が非常に高い状況は続いているということで、なかなかやりたいことができないと言いますか、市長が思い描かれる事業というのもなかなか財源の確保が難しいという状況もあるのかなという風に思っておりますけども、そういった中で持続可能な財政運営プラン、行革大綱を見据えながら来年度中に設定をされるということでございますけども、これについてはその持続可能な財政運営プランが反映される予算としては令和９年度当初予算にはその計画に基づいた予算提案がされるという風に理解をしてもよろしいでしょうか。

【財政課長】 ご質問お答えします。プランの策定につきましては、現在行政経営改革大綱の策定に着手をしておりますので、その方向性も随時確認をしながら調整を行いながら、来年の秋までには財政運営プランの方も策定していきたいと考えております。それはすなわち９年度の予算編成に合わせるという考え方ですので、枠年度からそういったプランのですね考え方を整理したものを持って予算編成に臨んでいきたいと考えております。

【堀井慎一朗議員】 はい、ありがとうございます。やはり最初の質問でも申し上げましたけども、計画を進めていく上ではそういった財政的な裏付けというものは必ず必要になりますので、そういったところでしっかりとした財政運営プランのほうを作成をしていただいてですね、令和９年度からの予算編成のほうには生かしていただきたいという風に思います。

政策の選択と集中・優先順位について

【堀井慎一朗議員】 それでは次の質問に入ります。人口減少が進行し財政的にも厳しい状況が見込まれる中、従来の政策事業を全て維持することは現実的に困難であり、政策の選択と集中、すなわち優先順位の明確化が不可欠であると考えます。市長が掲げられたピースフルをはじめとする重点事業について、財政配分上の優先順位はどのような基準で判断されたのか、また財源的制約が生じた場合、実施時期の見直しや事業規模の縮減を検討する判断基準は設けられているのか伺います。

【八谷市長】 ご質問にお答えをいたします。令和８年度当初予算につきましては先ほども申し上げました通り、予算編成方針において基本的な考え方を示し、その方向性を踏まえて編成作業を進めたところでございます。当該方針に基づき長期総合計画に掲げる将来像の実現に向けた３つの柱を軸に、本市の資源と強みを生かしポテンシャルを最大限発揮できる先進的で費用対効果の高い施策を重点取り組み施策と位置づけ予算計上を行っております。とりわけ政策を牽引し他自治体に対し比較優位を確立する戦略として位置づけた５つのリーディングプロジェクト、ピースフルにつきましては、本市の未来につながる希望が溢れる街づくりを進めるための取り組みであることから今後も優先的に実施していく必要があると考えております。合わせて次期財政運営プランに沿って事業の選択と集中を図り必要な財源の確保に努めてまいります。

【堀井慎一朗議員】 はい。今選択と集中はしていくという答弁であったかと思いますが、これまでの議会での答弁におきましてもビルド＆スクラップというものの必要性は述べられてきているという風に思います。特に補助金の関係ですね、これについては見直しをしていく必要について述べられているところでございますけども、令和８年度の当初予算においてこのスクラップの部分ですね、これは十分に検討されて反映をされているものという風に理解をしてよろしいか伺いたいと思います。

【財政課長】 ご質問にお答えします。補助金の考え方です。令和８年度におきまして補助金の整理でございますけれども、先ほどの小項目１の際にもですね答弁させていただきましたように、令和８年度についてはプランがまだできていない前提での予算編成業務になります。ですので一応予算編成方針の中では暫定的という考え方をお示しをし予算編成に取り組むとしております。この暫定的という考え方は基本的には事業を持っている所管において自律的に点検作業見直し作業を行って進めていくということになっております。ですのでそういっ

た観点での令和８年度の整理がなされたということで、全く補助金について全て残したということではなくて、一部の補助金については役割を終えたもの等の補助金については廃止終了としたものもございますし、特徴的なところで申しますと農業振興課のほうで予算を組んでおります補助金に関しましては、既存の予算をですね農業振興計画の考え方に基づきまして一旦その事業の補助金の見直しを行って新たな補助金を８年度からスタートするといった、補助金をですね精査した上で新しくするというような補助金も一部にはございます。そのように各課において見直しの中で整理を行ってきているということでございます。9 年度以降についてはですねまた財政運営プランの中で具体個別の事業補助金についてはしっかりと精査見直しを行った上で進めていきたいと考えております。

【堀井慎一朗議員】 はい。それとこの質問の中では事業の実施時期の見直しでありますとか、規模の縮減を検討する判断基準についてお伺いをしてるところでございますけども、先ほども申し上げましたように本市の財政非常に硬直化をしており自由に使えるお金が少ないという中で自主財源も乏しい状況を考えますと、外的な要因で急激な財政状況の変化というものも考えられるという風に思っています。そうした中で例えば経常収支比率が一定水準を超えた場合、また基金残高が一定を下回った場合など、計画の見直しを行うですね客観的な基準を設ける必要があるのではないかと思いますけどもその辺りいかがでしょうか。

【財政課長】 ご質問にお答えします。予算を組むという整理を行うとすればですね、やはり基本的に予算の立て付けとしましてはその年度における歳入をまずは捕捉をすると。要は見込むわけです。で見込んだ後にその歳入の範囲内において歳出を組むというのがこれ原理原則の部分でございますので、歳入の捕捉っていう視点で言いますとやはりその予算時期でないとなかなかその歳入の捕捉が非常に難しいという状況がございますので、具体的にはその次年度の予算編成時期に予算はしっかり組んでいくんですけれども、中長期的な視点で申しますとやはり当然の行政としては継続性が担保されないと、それも財源も含めてですけれども、重要な視点だと思いますので、その視点で言えばやはりその財政調整基金をですねやっぱある程度の水準はやっぱ保つ必要があるというような視点でありまとか、あとはやっぱり複数年度にわたる事業も含めた、多くは普通建設事業になってくるかと思いますので、そういったところは市債の借り入れ、特定財源の確保も含めて年次的に、先ほど企画課の答弁もありましたがローリングをしながらはめていくというような視点も必要かなという風に考えております。ただ実際その予算を組むにあたってはいわゆる義務的経費的なもの、要はその変えようがない歳出項目もございます。絞るのが非常に難しいといったものもございますので、それは適宜各年度の予算編成時期におきまして優先順位必要性ものからやはり歳出予算をはめていくという作業を編成時期においてはやっていくという流れになってくるかなと考えております。

【堀井慎一朗議員】 はい。実務的には財政課長おっしゃいますようにある程度その年度の予算を組む頃にならないとですね、どの程度の歳入が見込まれるのかというようなところは分からないというのは理解するところでございますけども、ただやはり課長の言葉にもありましたように持続的に行政運営をしていくという中においてはですね、ある程度の目途と言いますか財源の規模の計画、どの程度収入が入ってくるのか、当然これまでも試算をされて財政計画等でも示されてきたところではございますけども、客観的にですねこの数値を超えた場合には大幅にどの部分を見直していきますよというような、市民に対してもそういうようなきちんとしたメッセージの発信というものは必要じゃないかなという風には私は考えています。そういうところで財政計画にもありますけども、投資的経費の部分普通建設事業の部分の経費のほうも令和９年度からかなり抑えられた数字になっていると思います。こういう投資的経費の減少というのは地域経済に与える影響も非常に大きいという風に考えておりまして、財政を健全に運営していくという部分とやはり地域経済を回していくという部分、非常に両立させるのは難しい部分もあるんだという風に思います。そういった中でしっかりと今後の持続的な財政運営プランの中でもですね、どういった部分に優先的に投資をしていくのか、そういったところもしっかり吟味をいただきながら、また議会市民の方にも示していっていただきたいという風にお願いをしておきたいという風に思います。

長期総合計画の実行性を支える組織力の確保と職員体制について

【堀井慎一朗議員】 それでは次の質問に入ります。大項目2の長期総合計画の実行性を支える組織力の確保と職員体制について伺います。第3期長期総合計画が4月からスタートするが、計画は策定することが目的ではなく実行することにその本質があると考えます。その実行主体は市役所職員をはじめとする行政組織であるが、現状は職員数の減少、採用環境の厳しさ、さらには技術職専門職の不足といった課題が顕在化しております。このような状況の下で計画を着実に推進していくためには組織体制の整備と人的資源の確保が不可欠であることから次の点について市長の認識と今後の方向性を伺います。本年度末における退職者数及び新規採用者数はそれぞれ何名となる見込みか。また新年度における技術職専門職の充足について、業務に対する必要人員の充足率はどのようなのか伺います。

【八谷市長】 ご質問にお答えをいたします。まず本年度末の退職者数につきましては年度途中の退職を含め34名を見込んでおります。一方新規採用者数は31名を予定しているところであります。次に新年度の技術職専門職の充足状況についてでありますが、充足率の数値化は現時点では算定が困難ですが、土木建築の技術職、保健師、保育士などの専門職につきましては民間需要の高止まりに伴う厳しい採用環境にあり、予定数の確保には至っていない状況であります。

【堀井慎一朗議員】 はい。退職者が年度中途も中途も含めて34名。採用と言いますか内定と言いますか合格と言いますかの数字が31名ということでございますので、単純に考えると来年度正規職員が3名減っている状況という風にお見受けいたします。この合格者数31名につきましては今年度本市が採用したいと思っていた数字、市として求めた数字に達しているという風に考えてよろしいか伺いたいと思います。

【総務課長】 ご質問にお答えをいたします。答弁の中でもございました採用者数という部分でございます。合格者数という部分と採用者数というところちょっと区別の部分があろうかと思います。合格というところにつきますと36名というものを合格をさせていただいて、いろんな状況の中での辞退という部分がございまして、今回答弁の中で採用というところで31名というところになっております。1面の方にもございましたが今年度ホームページの方で実施計画というものの部分で概ねの人数を示させていただいた部分がございます。そうした中でいわゆる技術職でありますとか専門職というところについてはその人数に至っていないという状況もあるという状況で、総数的なところお答えという形になります。

【堀井慎一朗議員】 はい。技術職専門職については欲しいだけの職員数確保ができていないという答弁であったかと思います。令和7年度からフレッシャーズ枠というもの設けたりIT人材の枠、公務員経験者の枠、様々な枠を設けられて採用試験等行ってこられました。6月定例会でも質問させていただいたところではございますけども、この令和7年度からそういった採用の要件資格要件と言いますかのほう緩和されたことでですね、これまで例年と比べて受験者数等に変化があったのかどうか伺いたいと思います。

【総務課長】 ご質問にお答えをいたします。令和7年度議員の方もおっしゃられた通り、年齢要件の拡大でありますとか社会人枠、社会人経験者枠、公務員経験者枠というようなところも新設に加えまして、観光地特化型のプラットフォームパブリックコネクトという部分の活用ということで試験の内容、枠の部分のところもそうですし情報という部分の可視化、そういった部分の広報に関する強化そういったものも図ったところでございますが、本年度の受験者については近年を大きく上回る状況になっております。加えて申しますと地方公共団体の勤務条件等に関する調査結果、国の方の調査の中で出ておりますけれども、地方公務員の受験者数全体のですね、全国の地方公務員の受験者数というところ全国的に減少傾向ということになっておりまして、平成27年度と令和6年度ここまでも基本的には減少傾向になっておりますが、比較でも約27%程度の減少受験者数ですね全国的な部分そういったものになっている状況の中で、本市の7年度今年度行いました採用試験における受験者数、昨年度との比較ということではありますが16%の増加という風なところになっておるというところでございます。採用試験の受験者の中にはですね、先ほど申し上げたパブリックコネクトそういった部分の市長の動画でありますとか職員の状況とかそういった部分のブログも含めまして、そういったものを閲覧をしてい

る者も複数おりましたし、広報更新していない今の状況でございましてもそういった閲覧者が増えているということも含めまして、一定の効果というものはあったという風に考えております。

【堀井慎一朗議員】 はい。受験者数については一定の効果があったということでございます。ただこの退職者数ですよね、やはり34名という数字を聞いて非常にちょっとびっくりしているところはございます。年度中途は確か4名という風にお伺いしましたので、これについては一昨年その前の数字と比べますとですね、随分少なくなったのかな、市長の施政方針演説の中にもありますけども、組織の雰囲気が少しずつ変わりつつあるということも影響があっているのか、いい方向に向かっているのかなという風にも感じるところではございますが、やはり年度末にですね定年でない方がこれだけの数退職をされる、それぞれ様々理由があろうかと思いますけども、やはり組織としては非常に継続的な組織運営の見通しを立てるというものが難しいんじゃないかという風に思います。その時6月議会でもご質問したところではございますけども、この退職される方のですね退職理由等について、所管の課長だけではなくて総務等を一括してやはりそういう理由等についてきちんと把握をして次の組織のあり方の検討に生かしていくべきではないかという質問させていただきましたけども、その後その辺のところご検討された部分があるのか伺いたいと思います。

【総務課長】 ご質問にお答えをいたします。6月の定例会の中でもですねご答弁させていただいた部分であろうと思います。やはりその退職者数という数字という部分については実態というところを申し上げさせていただいた部分で、そこに対する我々の課題として考えていかなければならないについては継続してあるという風に認識をいたしております。その退職の部分、言われます通り理由につきましても非常に複合的になっている部分もございます。まずはやはりそれぞれの担当部署の所属長なり部長そういったところについてもしっかりと状況の把握をする、合わせて総務課の方といたしましても関係する職員の方でですね当然聞き取りをさせていただきながらですね、場面場面に状況によっての対応というものはやはり個々については必要な面もあろうと思いますので、一律的な部分というよりはいろんな対応ができるような形というもので対応していくというのがよりそういったところに対して反映できていくというものになっていこうと考えておりますので現状はそういう取り組みを継続していくというところでございます。

【堀井慎一朗議員】 はい。通告から少し逸れるのであれなんですけども、組織機構についての企画建設委員会に提示された資料を見ますと、令和7年4月1日現在の職員数463、令和8年4月の予定が462ということで、1名減というような計画を提示されています。これまでも現在の職員数は足りていないんだというような答弁をされてきた中でですね、来年度についてはさらに1名ではございますけども減少しているという状況についてどういう風にこの状況を認識をしていらっしゃるのか伺いたいという風に思います。

【総務課長】 ご質問にお答えをいたします。職員数のところにつきましては初答弁で申し上げた人数という形で採用と退職というところ申し上げて3名のところの減少という形での部分が令和8年4月1日で迎えていくという状況、これは現実でございますので、数字だけを追っていくという部分というのが適当ではないとは思っておりますけれども、令和6年から令和7年であるとかその前の部分ところ、なかなか職員数も退職も含めまして採用の状況も厳しい状況もある中で20の減少というところ非常に厳しい中で総合それぞれの力というところを含めて取り組みを行政組織を取り組んできたと、業務をですね取り組んできたという状況でございます。その状況という部分今年度採用のところについても努力をさせていただいた部分もございますし、職場の環境の部分そういったところにつきましてもですね、より職員の方も生きがいを持ってですね働いていく職場環境という部分のところを市役所全体で取り組んできているというのもございますので、退職のところについての丁寧な確認も含め、採用の部分のところへの現状の取り組みそういった適宜見直しも含めまして、職場環境のところも含めて総合的に今いる職員のところでですね対応していくというお答えになろうと思います。

【堀井慎一朗議員】 はい。課題は課題として認識をして取り組みのほうを進めていただきたいという風に思いますし、これも昨年の6月定例会で質問させていただきましたけども、定員マネジメントプランの方ですね、のほうも必要性というものは私と認識を同じくしていただいているものという風に思います。その後どのような

検討されているかという部分について本日はお伺いしませんが、やはりこういう状況が長く続く、要するに職員が足りないという認識の組織運営が長く続くというものがですね、やはり退職者を増やしている要因の１つにもなっているのではないのかなという風に私は考えています。やはりそこに働く職員も含めてですねしっかり定年まで働くという考え方が今少し変わってきている部分もあるのかなとは思いますけども、そうは言いしましてもやはり公務職場というものは持続させていくということが一番大事でございますし、ある程度経験を積まれて育ててきた職員がですね辞めていってしまうというような部分については、組織としてもいつまで経っても成長していかないと言いますか、いる職員にも負担が当然かかってまいりますし、しんどい中で色々と業務をこなしているという状況が見ることができますので、その辺りのところについては引き続きのしっかりとした取り組み、職員からの声もしっかり聞いていただいて職員の確保組織の体制を整えるという部分についてしっかりと尽力していただきたいという風に思います。

ピースフルの実行体制・プロジェクトチームについて

【堀井慎一朗議員】 それでは最後の質問に入ります。予算決算常任委員会におきまして、ピースフルの実行体制については組織を横断的に取り組むとの説明がなされ、各部長をリーダーとして事業を推進していくとの答弁がございました。しかしながら各部においてはすでに所管する通常業務を抱えており、その上で本プロジェクトを推進することは職員にとって相当の負担になることが想定をされます。また兼務体制では意思決定の迅速性や責任の所在が曖昧になる懸念もあります。重点政策であるピースフルを確実に推進するためには、既存組織の枠を超えた専任的なプロジェクト型の体制を構築すべきと考えるが市長の見解を伺います。

【八谷市長】 ご質問にお答えをいたします。ピースフルは本市の将来を見据えた重要な施策であり、その効果の発現と目的達成のためには推進力を備えた体制作りが必要であると考えております。ピースフルの各プロジェクトは第３期長期総合計画の枠組みの下分野横断での連携することで相乗効果を創出していくことを目的としております。令和８年度予算要求にあたりましては牽引役となる部長をリーダーとし各関係課長等で構成する組織横断的なプロジェクトチームにより検討を進め、現在も継続して調査等を行っている段階でございます。新年度の執行体制につきましては、長期総合計画の施策推進及び各プロジェクトの業務必要人員を組織編成に織り込み、調査や計画策定の支援にかかる業務委託専門的知見を要する外部人材の活用などを行う予定としております。ただし事業の推進や成果負荷状況の変化等を踏まえ必要な場合には推進体制や組織体制について機動的に見直すことといたしております。

【堀井慎一朗議員】 はい、ありがとうございます。今令和８年度からの組織改編についても提案をいただいてるところでございますけども、部長を増やしていくというような部分もこのピースフルを推進するにあたっての考えに基づいてご提案されたものであろうという風に理解をしております。市長の今の答弁の中にもございましたけども、外部人材の部分ですね、これ国の地方創生人材支援制度というようなものもございますし、それを利用して観光の分野でありますとか専門的な領域ですねのところにそういった人材を活用することで成果を上げてる自治体も全国的に多くなってきていると伺っておりますので、そういったところもですね、しっかりコンサルに仕事をお願いするというのも１つの考え方であろうかと思いますけども、やはり庄原にあったものそういったものを作っていくにあたってはですね、職員としっかり話をしていただいてそういった計画を作っていく、やはり外部から庄原市の組織の中に入っていただいてですねその責任においてそういった計画作りに参画をしていただくということも必要であろうと思いますので、是非外部人材の活用については積極的に行っていただきたいという風に思います。今後ピースフルが来年度はですね、先進地の視察であったりいうところが計画の策定とかいうようなところでまだ実行というフェーズには入っていない段階になるのかなと思いますけども、仮にこれが本格的に事業推進を進めるというようなところに入ってきた時にですね、やはり既存事業とピースフルを兼任の状況で行うことはスピード感という部分でもなかなか難しいことが増えてくるという風に思います。状況によっては市長答弁もございましたが、そういった専任的なプロジェクトチームを作ってやると

いうようなことも答弁の中にもございましたけども、期間限定１年間全部でなくてもいいと思うんですね、どこまでをやるために３ヶ月そういうプロジェクトチームを作るとか半年作るとかそういった形で各課から引き上げていってそういうチームを作る、それも私はやはり職員が自らの意思でそのチームに参加をしたいそういうような意思を持った方をそういうところで仕事をしていただきたいという風にも思いますけどもその辺りいかがでしょうか。

【企画課長】 はい、ご質問にお答えをいたします。先ほどの市長答弁を受けてまた議員の方からも同様の意見もいただいたところでございますが、８年度につきましてはピースフルは１歩目ということで調査研究のところへ重きを置いております。そうした中で９年度以降場合によっては８年度中途かもしれませんが、慎重にある程度のですね目途が立つとしっかりテコ入れといったところが出てくればですね、そうした体制色々な体制考えられると思います。議員のご提案の専任的なチームということも場合によってはあるかもしれませんし、そうしたところは幅広に考えていきたいと思います。今年度もですね、少し話逸れますがデジタルの関係で言いますとタスクフォースをいくつか組んで集中的にやっておりますが、職員の自発的な参加の下でですねそうしたチーム運営もやっております。そうしたことをですね色々成功事例を積み重ねていきながら次に適切な体制をですね取るように検討をしてまいりたいと考えております。

【堀井慎一朗議員】 はい。やはり職員のやりがいを引き出していくということが１問目の質問にもありますように、しっかりと定年まで仕事して働くいただくそういうことにもつながると思いますので、自発的なそういった意欲をしっかりと汲み取ってですね、そういった仕事が楽しいと思えるような職場作りというものにはお願いしたいと思います。最後ですけども市長にお伺いしたいと思います。昨年度市長室の方で子育て世代の方でしたかね懇談をされた時にですね、なかなか庄原市が変わってないというような言葉があったという風にお伺いしています。やはりそういうような意見にも見れるようにですね、市民の方はスピード感を持った庄原市の変化そういうものを求めていらっしゃると言う風に期待をしているという風に思いますけども、改めてこの市民の思いに対する市長のお考えを伺いたいと思います。

【八谷市長】 はい、ご質問にお答えをいたします。先ほどありましたようにですね、スピード感をどういうんでしょう大きく目に見える形での変化が見えないというようなご指摘をいただいてることは承知をしておりますが、やはり今回このピースフル等に込めました思いといたしましては、時間がかかってもやらなければいけないことをまず大きくやっていきたいと思っております。これは特にですね種蒔きという風に考えておりますので、すぐに発現するものばかりではありませんけれども、やはり時間のかかるものが多いという風に認識をしておりますので、それを早く始めないといつまで経っても結果が出ないとこれは以前から思っておったことでおりますので、それについて逃げずに対応していきたいと思っております。場当たり的すぐに結果が出るようなものばかりではなくとにかく大きく市の方向性を示していってその中でやっていきたいという風に思っておる次第です。以上です。

【堀井慎一朗議員】 はい、ありがとうございます。とは言いましても財政的にも人口減少の課題様々な課題待ったなしの課題であろうという風に思います。様々なご提案をいただく中でしっかりと私ども協力をしていきたいという風に思います。これで私の一般質問を終わります。

【桂藤和夫議長】 以上で会派市民の会、堀井慎一朗議員の質問を終わります。この際暫時休憩いたします。再開は午前 11 時５分といたします。